1 教育目標

ふるさとを愛し、主体的に学び、豊かな心と健康な身体を育み、たくましく未来を拓く生徒の育成

2 教育方針

- (1) 「石川の教育振興基本計画」や「いしかわ学びの指針12か条（学びの12か条プラス）」及び「七尾市教育委員会学校教育ビジョン（学校力の強化・教師力の強化・教育活動の充実・連携力の向上）」の目指す指導方針を教育理念として、教職員の資質を高め、全教職員が学校経営に参画し、組織的実践を通して教育目標の具現化に努める。
- (2) 一人一人の生徒への支援を大切に、規律を重んじ、生き生きと主体的に活動する学校づくり、個々の生徒の資質・能力を高め、生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりを行う。

3 めざす生徒像

- (1) 粘り強い心と体を持つ生徒
- (2) 明朗で思いやりのある生徒
- (3) 目標をもって学習する生徒
- (4) 自主的に行動する生徒

4 めざす教職員像

- (1) 生徒の意欲を高め、わかる授業に努める教師
- (2) 生徒理解に努め、一人一人の個性を認め励まし、生徒の主体性を育てる教師
- (3) 課題解決に組織的に対応でき、保護者、地域と連携し、信頼に応える教師

5 めざす学校像

- (1) 共に学び合い、感動を共有し、生き生きと活動する明るい学校
- (2) さわやかなあいさつと笑顔があふれ、礼儀と秩序のある学校
- (3) 生徒一人一人の良さを認め、伸ばす学校

6 中・長期的目標

《知・徳・体の調和のとれた 未来を拓く、心豊かな生徒の育成》

【心力】「生徒」人権意識を持ち、より良く生きようとする実践的な力を身につける。

（教師）責任とモラルを重んじ、人を思いやる豊かな心の醸成に努める。

【学力】「生徒」主体的・対話的で深い学びを通して、活用力やコミュニケーション能力を身につける。

（教師）生涯学び続ける意欲に満ち、確かな学力や創造性を育む学習指導に努める。

【体力】「生徒」挑戦する勇気を持ち、体力・活力の増進に努め、自立心を養う。

（教師）生徒一人一人に愛情を持って接し、心身の健康と自己肯定感を育む指導に努める。

7 重点目標と努力事項

【働き方改革の視点を取り入れた学校評価計画や学力向上ロードマップを基にPDCAサイクルを明確にした目標管理型の学校経営の推進】

(1) 豊かな心の醸成「生徒会・道徳推進G, 生徒指導G, 教育相談G」

- ①道徳の授業の工夫改善及び全教育活動において道徳教育の充実を図り、道徳的実践力を育てる。
- ②生徒が主体的に取り組む生徒会活動の充実を図り、認め、褒めることで生徒の自己有用感や自己肯定感を持たせる。
- ③人と関わり協力することで得られる感動体験を工夫し、仲間との絆を深める取組を推進する。

- ④特別支援教育コーディネーターを中心に支援を要する生徒の情報を共有して、個に対応した支援の充実を図る。
 - ⑤読書活動を充実させ、豊かな心の醸成を図る。
- (2) 健康・体力の保持増進と環境安全の確保「保健環境G」
- ①保健体育の授業を要とし、体力アップ1校1プランの実践を通して、体力及び忍耐力の増進を図る。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、食育を通して健康についての感心を高める。
 - ②学習規律やルールを守り、明るく大きな声で挨拶や返事ができ、積極的に行動する生徒を育成する。
 - ③生徒会活動や部活動等を通して、精神力を磨き体力を高め、心身共にたくましい生徒を育成する。
- (3) 確かな学力の育成
- ①七尾東部スタンダードに基づき、「楽しくわかる授業」の実践に努め、主体的・対話的で深い学びを通して、課題を解決する力を育成する。
 - ②確かな学力を身につけさせるため、家庭学習のシステム化の中で学習習慣を身につけさせ、個に応じた指導を確実に実施する。
 - ③学びの12か条プラスを基に、授業づくり・基盤づくり・体制づくりの具現化を図り、組織的に実践する。
- (4) 生徒指導の充実「生徒指導G、生徒会G、道徳推進G」
- ①一人一人の生徒理解を基本においた生徒指導と教育相談を充実させ、個に応じたきめ細かな対応を図り、組織的に不登校解消に努める。
 - ②いじめやトラブル、虐待等の早期発見・早期対応に努め、共通理解を図りながら全職員が迅速かつ組織的に対応する。
 - ③生徒会活動とリンクし、リーダーの育成を図りながら積極的な生徒指導に努め、さわやかで活力ある校風を構築する。
- (5) キャリア教育の推進「進路指導G」
- ①キャリア教育を充実させ、進路実現や自己実現のために主体的な進路選択能力を育成する。
 - ②小・中・高連携の交流事業を通して、3年間の系統性のある生徒指導を推進し、夢や目標を持ったより良い生き方を育む。
 - ③「職業講話」「職場体験」「高校体験入学」等の進路学習・体験学習を通して、望ましい勤労観を養う。
- (6) 小・中・高連携の推進「教務部」
- ①校区内小学校及び近隣高校と連携し小中高連携英語力向上推進事業に取り組む。
 - ②小中の連携を通じて、主体的な生活態度の確立、確かな学力の定着、道徳性を養う。
 - ③中高の連携を通じて、学力を向上し、主体的な進路選択を充実する。
- (7) 組織的な学校運営の推進「教務部、研究部」
- ①県指定「多忙化改善実践推進校」として、教職員の意識改革や業務の見直し、効率化に取り組み、学びの組織的実践を通して働き方改革を推進する。
 - ②若手教員早期育成プログラムに従って、若手教員の育成を組織的に実践する。
 - ③迅速な情報共有・共通理解により、一貫した方針の下に学校運営を進めると同時に、評価に基づくPDCAサイクルによる学校運営の改善を行う。
- (8) 信頼される学校づくりの推進「教務部」
- ①保護者や地域と連携して、あいさつ運動や読書活動、ボランティア活動等を充実させ、地域の人材を生かした学校づくりを推進する。
 - ②保護者や地域に様々な学校の教育活動の情報を発信したり公開したりして、生徒や保護者、地域に説明責任を果たし、信頼される学校づくりを推進する。
 - ③外部に出す文書等や外部との対応について、管理職と情報を共有し、危機管理を徹底する。(服務規律の徹底、信用失墜行為の防止、報告・連絡・相談の徹底)